

# 都立高等学校における 教育相談体制の構築のために

～心のサインを受け止めよう～

今、都立高等学校では、不登校、問題行動など心の問題を抱える生徒が増加するとともに、問題が複雑かつ深刻化しています。

学校では、担任や養護教諭をはじめとして各教職員が問題を抱える生徒に対応をしていますが、必ずしもそれが十分でない場合があります。また、保護者や生徒から相談を受けても適切な判断ができなかったり、校内・校外の連携ができなかったりする場合があります。

これからの都立高等学校では、さまざまな問題を抱えた生徒に、学校が組織として相談体制を持ち、学校全体で問題を共有し解決を図っていくことが必要です。

各学校の特性や状況に応じた教育相談体制を校内で構築していきましょう。

この年代の生徒の心理は、第二次性徴期や反抗期と重なり、大人からは、とらえにくいのが特徴です。

そのためにも、担任や担当者だけでなく、全教職員がカウンセリングマインドをもち、さまざまな機会をとらえて、生徒のサインを受け止めることが大切です。

さらに、生徒理解を教員間や学年、全校で共有し、適切な支援を行うための校内教育相談体制の構築が必要になります。

ここでは、都立高等学校における教育相談体制の構築のために有効と思われる取り組み例と、1年間の基本的な流れの例を紹介します。貴校の校内教育相談体制構築の参考にしてください。